



九条の会 アピール

集団的自衛権行使による『戦争する国』づくりに 反対する国民の声を」

日本国憲法はいま、大きな試練の時を迎えています。安倍首相は、「憲法改正は私の歴史的使命」と憲法の明文を変えることに強い執念をもやす一方で、歴代内閣のもとでは「許されない」とされてきた集団的自衛権行使に関する憲法解釈を転換し、「戦争する国」をめざして暴走を開始しているからです。

日本が武力攻撃を受けていなくともアメリカといっしょに海外で戦争するという集団的自衛権の行使が、「必要最小限度の範囲」という政府の従来の「自衛権」解釈から大きく逸脱することは明白です。それどころか、日本やアメリカの「防衛」ではなく、日米同盟を「世界全体の安定と繁栄のための『公共財』（防衛省「防衛力のあり方検討に関する中間報告）」とみなし、世界中のあらゆる地域・国への武力介入をめざす体制づくりです。

この企ては、本来なら衆参両院の三分の二以上と国民投票における過半数の賛成という憲法「改正」の手続きを経なければ許されない内容を、閣議決定だけで実現してしまうものです。そのため、長年にわたり集団的自衛権行使を違憲とする政府の憲法解釈を支えてきた内閣法制局長官の入れ替えまでおこないません。麻生副総理が学ぶべきと称賛したナチスがワイマール憲法を停止した手口そのものです。これは立憲主義を根本からつき崩すものであり、とうてい容認することはできません。

それだけではありません。安倍内閣は、自衛隊を戦争する軍隊にするために、海外での武力行使に関する制約をすべて取り払い、「防衛計画の大綱」の再改定により、「海兵隊的機能」や「敵基地攻撃能力」など攻撃的性格をいちだんと強めようとしています。

「戦争する国」づくりにも足を踏み入れようとしています。すでに安倍内閣は、防衛、外交に関する情報を国民から覆い隠し首相に強大な権限を集中する「特定秘密保護法案」や日本版NSC（国家安全保障会議）設置関連法案などを臨時国会に提出しようとしています。自民党が作成した「国家安全保障基本法案」では、「教育、科学技術、運輸、通信その他内政の各分野」でこれらの「安全保障」政策を優先させ、軍需産業の「保持・育成」をはかるとしているばかりでなく、こうした政策への協力を「国民の責務」と規定しています。これを許せば、憲法の条文には手をふれないまま自民党が昨年四月に発表した「日本国憲法改正草案」における第九条改憲の内容をほとんど実現してしまいます。

さらには福島原発事故の無責任と棄民、原発技術輸出の問題、その他問題山積の現状があります。

戦前、日本国民はすべての抵抗手段を奪われ、ズルズルと侵略戦争の泥沼に巻き込まれていった苦い経験をもっています。しかし、いま日本国民は国政の最高決定権を持つ主権者であり、さらに侵略戦争の教訓を活かした世界にも誇るべき九条を含む日本国憲法をもっています。いまこそ日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、歴史の教訓に背を向ける安倍内閣を草の根からの世論で包囲し、この暴走を阻むための行動にたちあがりましょう。

2013年10月7日 九条の会

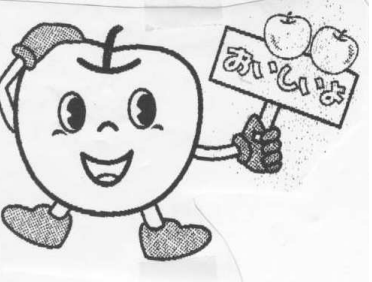
特定秘密保護法案をめぐる

10月5日、一橋大学名誉教授・山内敏弘さんの「憲法九条の現状と私たちの課題」－集団的自衛権・沖縄・領土問題－を聞きました。

話す予定にはなかったそうですが、今、緊急の問題として「特定秘密保護法案」が急に出されてきました。パブリックコメントもたった2週間しか期間を設けず、大変問題がある法案が、国民に十分知らされずに、国会審議にかけられ決められてしまうかもしれない状況になっています。今、大きな声を上げてこの危険性を広く知らせなければならぬと訴えられました。

特定秘密とは、防衛・外交・警察に関するすべての情報を意味し、行政機関の長（大臣等）が指定でき、処罰の対象は、これらを漏洩した公務員とされていますが、マスコミ関係者、国会議員、あるいはそれを知らうとした国民、のすべてが対象とされています。

この法案は安倍政権が推し進めている集団的自衛権とセットになっていると思います。ネット上で、藤原紀香さんも、ブログにコメントしています。まず、知って、その危険性を国民に広げ、世論の力で阻止しましょう。



(代田4丁目・萱野 幸子)

シリーズ「戦争について語る」 戦争末期の愛知の寺で

1932年生れの私は、小学校に入学する年に両親や兄弟と別れ、東京から愛知の親戚の寺に移り住み、翌年から春秋のお彼岸やお盆の仏事に参加、翌々年には檀家まわりもしていた。その寺は父親が継ぐことになっていたが、妹に任せ本人は寺を捨て東京に出てしまったのだ。私は、寺のお庫裡さんになった叔母に育てられた。

小学校も国民学校となり、やがて太平洋戦争の戦況も厳しくなるにつれ、寺は梵鐘はじめ本堂の欄干の擬宝珠や雨樋、さらに仏具の蠟燭立まで金属類を供出し、本堂には中島飛行機の徴用工30人が生活するようになった。檀家も葬式はともかく、年忌の法事は行なわれなくなり、寺の境内には防空壕が四つも掘られ、空襲警報のたびに本尊の阿弥陀如来を壕に避難させていた。そのころから本尊の前には京都の本山から送られてきた「敵国降伏」の木札を立て、毎日の勤行には敵国降伏祈願を唱えさせられていた。

奥三河や岐阜県からの徴用工に召集令状が寺に配達されると、一刻でも早く知らせなければと、子供の私か中島飛行機の正門まで自転車で届けたことが再三あり、その夜は和尚による壮行会が行なわれたが、歌もなく話も少ない深刻悲壮な会だったと子供心にも異様に思ったのだった。

海洋少年団にも入り「軍国少年」だったが、県立中学に入学しても、工場動員こそしなかったが、運動場やテニスコートを耕しガソリン原料の薩摩芋づくりや防空壕掘りの毎日だった。日曜日には出征兵士の留守宅農家へ農作業の手伝いに行かされた。われわれは農業動員と呼んでいた。

東京、大阪、名古屋、神戸など大都市から地方都市へ空襲が広がり、知多半島の小都市も軍需工場があったため、米軍爆撃機による空爆が行なわれ、その工場は、一回の激しい爆撃で、艦載機の製造が全く不可能となるほど壊滅的な大被害だったと街にも噂が流れた。その後も住宅地に対しグラマン機による無差別な空襲があり、十数軒の民家が機銃操射の被害を受けたようだった。

知多半島には海軍航空隊の基地があり、出撃の前日などに将校や下士官が寺を来訪、長時間にわたり本尊の阿弥陀如来と対面しているということがあり、その真剣な姿に抹茶を給仕する私も緊張し言葉をかけることなどとてもできなかったことを思い出す。

正式な僧侶としての修行もないまま高校生のとき、その寺を出て、まだ、闇市が盛んな東京の親元に帰ってきた。しかし、両親とも病床にあり、厳しいアルバイト生活で食料難の生活をたたかう毎日だった。

(代沢3丁目・石川 律)

今年発足の吉祥寺9条の会 意欲的！ 井の頭線沿線9条の会開かれる

9月28日、浜田山9条の会の呼びかけで初めての井の頭線沿線9条の会が開かれた。世田谷区の代田、杉並区の永福、浜田山、高井戸、こうふく（高井戸、富士見ヶ丘、久我山）武蔵野市の吉祥寺、三鷹の7つの9条の会が参加。今年発足した吉祥寺9条の会は、意欲的で10月14日に「憲法はどう変えられようとしているのか」藤原真由美弁護士を囲んで一講演と対話の集いを企画。永福では、10月26日に「福島原発・汚染水はブロックされてる？」菅波 完さんの講演会などが予定されている。

交流では、企画内容によって参加人数に差が生じるが企画はどう決めているのか、講師はどう探すのか（9条の会・事務局に派遣講師団がある）、講師謝礼は、会の財政は、会の運営は、ニュースの発行は、9条を改悪し戦争をする国にする動きに対して、運動を拓げていくには、などの意見が出された。

話は変わりますが、大阪市西淀川区で9条署名が住民過半数を達成したというニュースが届きました。この教訓に学んで頑張りましょう。

(代田5丁目・小澤 清子)

集会等の紹介

1 1月4日（月・休日） 午後1時半～4時半ころ 代田・九条の会 創立記念の集会
講演：「日本国憲法を鍛え直すー「いのち」の視点から」 高橋 哲哉さん（東京大学教授）
文化行事：マジック タジマジック & わか葉 さん

1 1月16日（土） 午前10時半～

九条の会 「全国交流・討論集会」

会場：日本教育会館

1 2月7日（土） 午後1時半～4時

世田谷・九条の会 8周年記念 講演と音楽のつどい

講演：五十嵐仁さん（法政大学大原社会問題研究所教授）

音楽：中田 一子さんほか

会場：成城ホール

主催：世田谷・九条の会



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～